Mission
４５分で３０／５０点を突破せよ！

第十講　過去問実践演習　２０１５年文系第一問

次の文を読んで、後の問に答えよ。

英語には "To cut a long story short" （かいつまんで話すと）とか、"Please make your story short." （手短かに言って下さい）とかいう言い回しがあるらしい。日本語の感覚からすると身も蓋もないような言い方であるが、それだけ明快でもある。

しかし、(1)ただ長い物語を短くしたものが短編ではない。*サローヤン式に言うならば、鯨をいくら細かく切り刻んでも鰯（いわし）にはならない、それは鯨の切り身である。短いというのは、話の長短よりもむしろ文章の性質から来る。書き出しの一行が、あるいは一節がその作品のスタイルを決定するとよく言われるが、十枚で完結すべき物語はすでにその分量に相応した文章の調子を持っている。調子というところを呼吸、リズム、間合い、密度等々、いろいろ好きなように言い換えてもいい。「汝のストーリーを短くせよ」と言われなくても、それ以上長くも短くもなりようがないのが作品の正しい寸法である。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

短編では、「この物語を始める前に」だの、「先刻もちょっと触れておいたが」だの、「これは余談であるが」だのと悠長なことはやっていられない。長編の読者は途中で少しぐらい注意力が眠り込んでも、作者がそのつど揺り起こしてくれるから安心であるが、短編はそれができない。説明や注釈にも頼れない。となると、残るはイメージしかない。具体的な物の形や印象を、手早く読者の脳裏に焼きつけなくてはならない。

*チェーホフが、彼に恋した作家志望の人妻アヴィーロワに語ったという「生きた形象から思想が生まれるので、思想から形象が生まれるのではない」という言葉は有名である。長編と短編を器用に書き分けている(2)<u>現代イタリアの作家モラヴィアが、短編を抒情詩に近いとし、長編を評論や哲学論文になぞらえているのもその辺を衝いたものであろう。</u>

もっとも、私のこういう言い方は実は本末転倒で、短編の作者はもともとイメージで語るのが得意なのだ、その反対は苦手なのだ、と言うほうが本当かもしれない。彼の書くものが短いのは、イメージというものはそうそう引き伸ばせないからである。ルナールなどは、「十語を超える描写はもうはっきり目に見えない」と極端なことを言っている。

イメージという言葉を言い替えようとすると、どうもぴったり行かなくて不便である。影像、映像、形象、物の姿、心象などと並べてみるが落ち

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
４５分で３０／５０点を突破せよ！

着かない。とにかく網膜にうつるものも、心に浮かぶものも、ともにイメージであろう。絵や写真やテレビの画面もイメージであり、フランス語で「イメージの狩人」といえば報道カメラマンや映画監督のことでもある。

一八九〇年代、青年国木田独歩が行く先々で自然の美にひたっていたちょうどその頃、フランスではルナールが故郷の田園を再発見しつつあった。彼の文章の極致を示す『博物誌』のプロローグが「イメージの狩人」と題されている。「彼」は朝早く起きて、一日野づらや川辺や林の中を歩き回り、いたるところでイメージを採集する。そして、日が落ちると家に帰って、明かりを消し、眠る前に長いことかかってそれらを反芻（はんすう）する。

「イメージは、思い出すままに、素直によみがえる。一つが別の一つを呼び覚まし、そうして燐光（りんこう）を発するイメージの群がりが、新しくどんどん増え広がって行く。ちょうど、一日じゅう追い散らされていた*鷓鴣（しゃこ）のむれが、危険も去って夕べの歌をうたい、畑のくぼみでお互いに呼び交わしているようなものだ。」

田園風景にことよせた一つの喩えであるが、自分の文章はこんなふうにして生まれるのだと言っているのであろう。作家の目はレンズであると同時に対象を捕らえる網である。（３）文章でも写生ということがよく言われるが、その喩えはむしろ誤解を生みやすい。書くためには記憶というフィ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

ルターと、回想できるようになるまでの十分な時間が必要である。

ルナールで最も知られている*『にんじん』は、それ自体がごく短い短編である章を五十近く並べたもので、筋といってはあまりない。初め小学生程度だったにんじんが、最後には高校生ぐらいになっているのが見届けられる。子供は放って置いても大きくなるのだから、これくらい変哲もない話はない。ルナールは二十四歳で十七歳のパリジェンヌと結婚し、奥さんは翌年彼の郷里で長男を生む。その際、実家の母親が愛妻につらく当たるのを見ているうちに、自分の子供時代のことを少しずつ思い出して行ったらしい。早くも次の年には、いずれ『にんじん』に収まる話をいくつか雑誌に発表している。

その第一話『めんどり』は、この本を一度でも読んだ人、読みかけた人なら、あの風変わりな*ヴァロットンの版画の挿絵とともにすぐに思い出されるであろう。にんじんが母親に鶏小屋の戸を閉めにやらされ、寒いのと怖いのとで震えながら闇を突っ切って行き、無事任務を果たして凱旋の気分で戻るが、誰にも褒めてもらえない。どころか、母親に「これから毎晩、お前が閉めに行くんだよ」と言われる。

この章は長編小説ならば満を持して書き起こすところであろう。だが、『にんじん』という作品は今も言ったように、あちこちに書いた小品の寄

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
４５分で３０／５０点を突破せよ！

せ集めである。『めんどり』以前に書いたものすら入っていて、全然執筆順ではない。作者が巻頭には次の『しゃこ』でも、その次の『犬のやつ』でもなく、是非ともこの『めんどり』を配したいと考えたのは、(4)彼一流の計算があってにちがいない。

ルナール自身は『にんじん』を「不完全で、構成のまずい本」と言っているが、それでも『にんじん』一巻が『めんどり』で始まるのはいかにも適切で、作者のアレンジの妙であり、かつまた読者への親切である。それは一編の挿話でありながら、要領のいい人物紹介を兼ねている。そればかりか、各人物のこの物語における位置や役割や相互の関係といったものを一挙に示す、わかり易い見取り図にもなっている。しかも、抜け目のない作者は只(ただ)の一語も紹介や説明の労をとるわけではない。人物一人一人に、いわば順番に自己紹介をさせるだけである。何によってかといえば、会話によってである。いきなりもう戯曲のような書き方である。

小説の描写というと、われわれはとかく風景描写とか心理描写とかを考えて、会話も描写であることを忘れがちである。しかも、会話ぐらい直接的、具体的、即効的にその人物を表現してのけるものはない。初対面で予備知識がなくても、口のきき方ひとつで相手のことがわかるようなものである。ルナールがこういう書き方を選んだのは、会話こそ自分の最強の武

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

器であることをよく心得ていたからであろう。

（阿部 昭『短編小説礼讃』より）

注（＊）

サローヤン＝二十世紀アメリカの小説家、劇作家。

チェーホフ＝十九世紀ロシアの小説家、劇作家。短編の名手として知られる。

鶉鴣＝キジ目キジ科の鳥のうち、ウズラとキジの中間の体形をもつ一群の総称。

『にんじん』＝ルナールの代表作。「にんじん」とは赤毛の主人公につけられたあだ名である。

ヴァロットン＝スイス生まれの画家。十九世紀末から二十世紀初めにかけてパリで活躍した。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　傍線部（1）について、筆者はなぜこのように述べているのか、説明せよ。

問二　傍線部（2）は短編と長編のどのような相違を述べたものか、説明せよ。

問三　傍線部（3）について、筆者はなぜこのように考えるのか、説明せよ。

問四　傍線部（4）について、筆者はなぜこのように考えるのか、後の二つの段落を踏まえて説明せよ。

問五　筆者の考えでは、優れた短編はどのように生み出されるのか、本文全体を受けて説明せよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

一

二

三

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

四

五

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

本講義の参考文献一覧

最難関大学の受験生が一科目に使える時間は本当に限られています。ですから、参考書もできるだけ厳選しておくべきでしょう。受験生には次の本を薦めます。

受験生用

「入門！論理学」（中公新書）野矢茂樹
「論理トレーニング１０１題」（産業図書）　野矢茂樹
「東大現代文でロジカルシンキングを鍛える」（ＫＡＤＯＫＡＷＡ）柳生好之

より発展的な学習へ（合格後に読んでみてください）

私の講義を聞いて、「もっと論理学について知りたい」と思う方もいると思います（実際に授業ではそういう声を聞きます）。この要望に対して私は「まずは大学に合格しなさい」ということにしています。最難関大学の受験科目は多岐にわたり、その学習範囲は膨大です。ですから、私は最短で合格できるルートを示すようにしています。

ただし、本来の勉強の醍醐味は「知れば知るほど、さらに知りたくなる」ということだと思います。そこで私は「大学に入学したら、こんな本を読んでみたらどうだろう」と提案することにしています。皆さんにもその醍醐味を味わっていただきたいので、「予備校の講義テキストにはない」参考文献一覧をつけておきます。ぜひ、合格後に読んでみてください。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

1、日本語の文法的分析について

「概説　日本語」（朝倉書店）北原保雄
「日本語の文法」（ひつじ書房）　高橋太郎など
「日本語文法入門ハンドブック」（研究社）　加藤重広
「入門　日本語の文法」（アルク）村田水恵
「古典文の構造」（右文書院）中村幸弘、碁石雅利

2、日本語（日常言語）の論理的分析について

a、理論理解系

「入門！論理学」（中公新書）野矢茂樹
「論理学」（東京大学出版会）野矢茂樹
「本当にわかる論理学」（日本実業出版社）三浦俊彦
「議論のルール」（NHK 出版）福澤一吉
「新装版　集合とはなにか」（講談社ブルーバックス）竹内外史
「日常言語の論理学」（産業図書）オールウド、アンデソン、ダール
「論理学をつくる」（名古屋大学出版会）戸田山和久

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

b、実践論理力養成系

「新版　論理トレーニング」（産業図書）野矢茂樹
「論理トレーニング」（産業図書）野矢茂樹
「論理トレーニング１０１題」（産業図書）野矢茂樹
「論理のスキルアップ」（春秋社）アン・トムソン
「論理パラドクス」（二見書房）三浦俊彦
「論理サバイバル」（二見書房）三浦俊彦
「論理的思考の技法Ⅰ」（法学書院）鈴木美佐子
「論理的思考の技法Ⅱ」（法学書院）鈴木美佐子
「文章を論理で読み解くためのクリティカル・リーディング」（NHK 出版）福澤一吉
「論理表現のレッスン」（NHK 出版）福澤一吉
「法科大学院適性試験［推論・分析力］解法の論理ブック」（実務教育出版）吉岡友治、阿藤俊一
「判断推理がみるみるわかる！解法の玉手箱　改訂版」（実務教育出版）資格試験研究会
「標準　判断推理　改訂版」（実務教育出版）田辺勉

3、論理学の思想的背景について

「分析哲学入門」（講談社）八木沢敬
「分析哲学の誕生」（勁草書房）日本科学哲学会
「分析哲学講義」（筑摩書房）青山拓央

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「言語哲学」（勁草書房）W.G. ライカン

「ウィトゲンシュタイン『論理哲学論考』を読む」（ちくま学芸文庫）野矢茂樹

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十講　過去問実践演習

２０１５年前期文系第一問　阿部昭『短編小説礼讃』

要旨

作品にはその分量に相応した文章の調子があり、それ以上長くも短くもなりようがないものである。短編はイメージを語るのに対して、長編は思想を語る。イメージを語る描写は長く引き伸ばせない。そして、人物のイメージを表現するのに最もふさわしいのは会話である。

解答（５０点）

問一　１０点

正しい寸法の作品はそれ以上長くも短くもなりようがないものであり、短編はその分量に相応した文章の調子や性質を持つため、長い物語の要約をしても、長い物語の断片をつなぎ合わせたものにしかならないから。

解答ポイント

① 正しい寸法の作品はそれ以上長くも短くもなりようがないものであり（４点）
② 短編はその分量に相応した文章の調子や性質を持つため（３点）
③ 長い物語の要約をしても、長い物語の断片をつなぎ合わせたものにしかならない（３点）

問二　１０点

短編は短い描写で具体的な物の形象や印象を手早く読者の脳裏に焼き付けるものであるのに対し、長編は作者の合いの手や長い説明や注釈で抽象的な思想をじっくりと読者に理解させるものである。

解答ポイント

① ａ短い描写で具体的な物の形象や印象を（３点）
　ｂ手早く読者の脳裏に焼き付けるもの（２点）
② ａ作者の合いの手や長い説明や注釈で抽象的な思想を（３点）
　ｂじっくりと読者に理解させるもの（２点）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　１０点

文章のイメージは心に浮かぶものであり、そのイメージは記憶に残り、回想できるようになるまでの十分な時間が必要であるのに対し、絵画の写生のイメージは網膜にうつるものであり、そのイメージは現前しており、現前している瞬間を捉えて表現する必要があるから。

解答ポイント

① a 文章のイメージは心に浮かぶものであり（２点）
　b 絵画の写生のイメージは網膜にうつるものであり（２点）

② そのイメージは記憶に残り、回想できるようになるまでの十分な時間が必要である（３点）

③ そのイメージは現前しており、現前している瞬間を捉えて表現する必要がある（３点）

問四　１０点

『めんどり』は、『にんじん』の登場人物紹介や、各人物の相関関係を表すものになっており、その紹介は直接的、具体的、即効的に人物を表現する会話によって行われており、ルナール自身が会話の描写こそ自分の最も優れた長所であると心得ていたから。

解答ポイント

① 『めんどり』は、『にんじん』の登場人物紹介や、各人物の相関関係を表すものになっており（３点）

② その紹介は直接的、具体的、即効的に人物を表現する会話によって行われており（３点）

③ ルナール自身が会話の描写こそ自分の最も優れた長所であると心得ていた（４点）

問五　１０点

短編の作者は記憶に残るイメージをじっくりと回想して、そのイメージを具体的な物の形や印象として手早く読者の脳裏に焼きつけるように書く。またその描写は、短くて、直接的、具体的、即効的にイメージを表現する会話を中心として行われる。そして短編はその分量にふさわしい文章の調子や性質を持つものとして生み出される。

解答ポイント

① 短編の作者は記憶に残るイメージをじっくりと回想し（２点）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

② そのイメージを具体的な物の形や印象として手早く読者の脳裏に焼きつけるように書く（3点）

③ その描写は、短くて、直接的、具体的、即効的にイメージを表現する会話を中心として行われる（2点）

④ 短編はその分量にふさわしい文章の調子や性質を持つものとして生み出される（3点）

解説

問一　傍線部理由説明問題

傍線部の飛躍を埋める論証をする問題である。傍線部を分析すると、「ただ長い物語を短くしたもの」という部分と「短編ではない」という部分の間に飛躍がある。以上の飛躍を埋める論証となる部分を本文中に求める。

まず「ただ長い物語を短くしたもの」であるが、第二段落二文目に「鯨をいくら細かく切り刻んでも鰯にはならない、それは鯨の切り身である」とある。これは比喩表現であるが、「鯨」を「細かく切り刻」むとは「長い物語を短くする」ということを喩えており、「鯨の切り身」とは①「長い物語の断片（の集合）」であることを喩えている。

次に「短編ではない」に繋がるために、「短編」との違いを説明する必要がある。「短編」の説明は同段落三文目に「短いというのは、話の長短よりもむしろ文章の性質から来る」とある。また、同段落四文目に「十枚で完結すべき物語はすでにその分量に相応した文章の調子を持っている」とある。以上より「短編」とは②「その分量に相応した文章の調子や性質を持つ」ものであるとわかる。

以上の二つをまとめると、「長い物語を短くしようとしても、長い物語の断片」となり、「短編はその分量に相応した文章の調子や性質を持つ」ことから、両者はまったく異なるものであることがわかる。だから、同段落六文目にあるように③「正しい寸法」の作品は「それ以上長くも短くもなりようがない」。よって、「ただ長い物語を短くしたものが短編ではない」のである。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

問二　傍線部内容説明問題

傍線部のわかりにくい部分を詳しく、わかりやすく説明する問題である。特に今回は「短編」と「長編」の「相違」をわかりやすく説明する。傍線部を分析すると①「短編を抒情詩に近いとし」という比喩表現、②「長編を評論や哲学論文になぞらえている」という比喩表現、③「その辺」という指

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

示語がポイントである。以上のポイントを説明する根拠を本文中に求める。

まず③「その辺」であるが、前文にある「『生きた形象から思想が生まれるので、思想から形象が生まれるのではない』という言葉」を指している。ただし、これだけではわからないので、一度保留にしておく。

次に①「短編を抒情詩に近いとし」という比喩表現であるが、第三段落五文目に「具体的な物の形や印象を、手早く読者の脳裏に焼きつけなくてはならない」とある。この焼きつけた「具体的な物の形や印象」が「イメージ」であり、「抒情詩」との共通点も、この「イメージ」である。

そして②「長編を評論や哲学論文になぞらえている」という比喩表現であるが、③で捉えた部分に「形象」と「思想」という言葉がある。「イメージ」が「形象（＝具体的な物の形や印象）」を捉えるものだとしたら、「思想」はその反対であり、「評論や哲学論文」との共通点も「思想」を伝えることであると考える。その「思想」は第三段落一〜三文目をまとめると「作者の合いの手や説明や注釈」によって、伝えられるとわかる。さらに、「具体的な物の形や印象を、手早く読者の脳裏に焼きつけなくてはならない」の反対は、「抽象的な思想をじっくりと読者に理解させる」であると考える。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

問三　傍線部理由説明問題

傍線部の飛躍を埋める論証をする問題である。傍線部を分析すると「その喩え」という部分と「むしろ誤解を生みやすい」という部分の間に飛躍がある。よって、この飛躍を埋める論証となる部分を本文中に求める。

まず「その喩え」であるが、傍線部内に「文章でも写生ということがよく言われる」とある。「文章」を「絵画」に喩えて「写生」といったのである。これを詳しく説明している部分は第六段落三文目に「とにかく網膜にうつるものも、心に浮かぶものも、ともにイメージであろう」とある。①「文章」は「心に浮かぶもの」を表し、「絵画」は「網膜にうつるもの」を表すが、ともに「イメージ」であるという点で似ているから、「文章」を「絵画」に喩えて「写生」と言ったのである。

次に「その喩え」が「誤解」に繋がる説明として、「文章」と「絵画」は似ているようで、実は「違う」ということを言わなければならない。その違いを表しているのが、第八段落四文目②「書くためには記憶というフィルターと、回想できるようになるまでの十分な時間が必要である」という部分である。「絵画」の説明自体はないが、「文章」の反対を考える

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

とよい。③「そのイメージは現前しており、現前している瞬間を捉えて表現する必要がある」と説明すればよいだろう。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

問四　傍線部理由説明問題

傍線部の飛躍を埋める論証をする問題である。傍線部のある一文を分析すると「作者が巻頭には次の『しゃこ』でも、その次の『犬のやつ』でもなく、是非ともこの『めんどり』を配したいと考えたのは」という部分と「彼一流の計算があってにちがいない」という部分の間に飛躍がある。よって、この飛躍を埋める論証となる部分を、本文中に求める。

まず①『めんどり』であるが、第十二段落二文目に「それは一編の挿話でありながら、要領のいい人物紹介を兼ねている」とある。また、同段落三文目に「そればかりか、各人物のこの物語における位置や役割や相互の関係といったものを一挙に示す、わかり易い見取り図にもなっている」とある。そしてそれを「会話」によって行っている。

次に「彼一流の計算」に繋がる部分を求める。すると、その「会話」は第十三段落二文目にあるように②「会話ぐらい直接的、具体的、即効的にその人物を表現してのけるものはない」とあることから、「作者の意図」を表現するのに最もふさわしい方法であることがわかる。また、同段落四文目に③「ルナールがこういう書き方を選んだのは、会話こそ自分の最強の武器であることをよく心得ていたから」とあるように、「自分の意図」を「最も得意な方法」で表しているから、「彼一流の計算」と言えるのである。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

問五　全体把握（要約）問題

本文全体の趣旨を要約する問題である。要約する際には今までの設問で捉えた「短編」の説明をまとめて解答を構成するとよい。

まず問二、問三で捉えたように、①「短編の作者は記憶に残るイメージをじっくりと回想（問三）」して、②「そのイメージを具体的な物の形や印象として手早く読者の脳裏に焼きつけるように書く（問二）」とする。

次に③「またその描写は、短くて、直接的、具体的、即効的にイメージを表現する会話を中心として行われる（問四）」とする。

最後に④「短編はその分量にふさわしい文章の調子や性質を持つものとして生み出される（問一）」とする。

このように今までの設問で捉えた「短編」を説明するポイ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ントをまとめて解答を構成するとよい。

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。